

浄土真宗では、「戒名」(か  
いみょう)ではなく、「法名」(ほ  
うみょう)と言います。

仏教では、戒律という規則  
が数百あると言われています。

「私はこれからこの規則を、守  
りながら生活をします」という  
宣言をする時にいただく名前  
を戒名と言います。

これに対して「法名」をいた  
だくということとは、

これまでの生活に  
プラスして、仏の  
教えに耳を傾け  
ていく努力をし  
ますというような意味があり  
ます。

ということとは、本来、法名は  
生前(生きている間)にいた  
くものなのです。亡くなってか  
らお話をきくということでは  
きませんので、生前にいた  
くのです。

しかし、生前に仏教の教え  
に触れるというご縁のなかった

方などは、亡くなった後にいた  
だくこともあるのです。

一般的には亡くなれば灰に  
なってしまうので消滅をしていくと  
いう考え方があります。これは  
合理的な考え方もかもしれませ  
ん。でも仏教には、「亡くなる  
と仏になる」という考え方が  
あります。

亡くなった後に故人に対し

## 浄土真宗では戒名ではなく法名です

て法名をつけるということとは、  
「個人は消滅したのではなく、  
仏さまになる」ということを私  
たちがいただくことを意味し  
ます。仏教では肉体が減んだ  
らすべてが無かったことになる  
とは考えないのです。肉体は  
滅んでしまったけれども、仏に  
成って私たちを導く存在とし  
てここに存在し続けるという

のです。

「仏さまとして存在し続け  
る」ということは何を意味す  
るのでしょうか。この答えは自  
分で探していかななくてはなり  
ません。法名を生きている間  
にいただくということは「仏に  
成る」という意味をこれから  
考えていきますという宣言と  
言ってもいいかもしれません。

勉強には、

正解やある程度  
の答えがあります。

でも、仏として存  
在し続ける」とい  
う問いに共通の正解はありま  
せん。自分にとっての正解を  
見つけていくことが大切だと  
思います。(山崎龍法)

